

弟島におけるウシガエルの根絶の達成

環境省は、神奈川県立生命の星・地球博物館との協力の下、2004年から弟島においてウシガエルの排除を実施しています。その結果、以下のとおり、過去2年5ヶ月以上にわたりウシガエルが全く見られない状況（繁殖は4年2ヶ月にわたり見られていません。）となり、同島からの根絶が達成されたものと考えられます。これは、国内でほとんど例のない本種の根絶事例となり、ひとつの諸島からの完全排除された初めての事例となります。

1. 小笠原諸島におけるウシガエルの生息状況

・近年にウシガエルが確認されているのは、父島列島の北側に位置する弟島の北部のみ（鹿ノ浜及び広根山周辺の沢）である。同島には固有トンボ類を始めとする希少な昆虫類が生息することから、その潜在的な捕食者であるウシガエルの排除が必要とされていた。

2. ウシガエル捕獲状況の経緯

(1) 鹿ノ浜

年	捕獲	捕獲数	特記事項
2004	捕獲開始	9	ノブタに捕食された死体発見・ノブタより先にウシガエル排除の方針
2005	ワナ捕獲開始	41	6月繁殖確認, 5卵塊・500個体以上の幼体排除
2006	ワナ捕獲継続	10	5月末受精卵確認, 音声モニタリング開始(6月に音声確認)
2007	ワナ捕獲継続	0	音声・卵等確認されず
2008	ワナ捕獲継続	0	音声・卵等確認されず
2009	ワナ捕獲継続	0	音声・卵等確認されず

(2) 広根山周辺の沢

年	捕獲	捕獲数	特記事項
2004		0	4月に生息確認
2005	捕獲開始	2	手捕り
2006	捕獲継続	0	
2007	捕獲継続	2	手捕り
2008	ワナ捕獲開始	0	音声モニタリング開始(確認されず)
2009	ワナ捕獲継続	0	音声モニタリング継続(確認されず)

3. 生息状況モニタリング

- ・鹿ノ浜においては、個体数が激減した2006年4月以降、本種が繁殖する春から秋にかけて、夜間に自動録音装置を用いた鳴声のモニタリングを継続している。ウシガエルの鳴声は同年6月までにわずかに確認されたのみで、2006年7月以降は全く記録されていない。繁殖は2005年9月以降、4年2ヶ月確認されていない。
- ・広根山周辺の沢においては、2008年6月から自動録音装置を用いたモニタリングを実施しているが、記録はない。

4. 根絶宣言の根拠

- ・本種は「平地性で、常に繁殖場所周辺の草の茂った水辺に生息する*」とされる。弟島の主たる生息地である鹿ノ浜では、2006年6月以降、3年5ヶ月にわたり全く生息の痕跡等が確認されていない。広根山周辺の沢においても痕跡等は確認されていない。
- ・本種は「変態の2 - 3年後に性的成熟に達する*」とされる。弟島での最後の繁殖確認は2005年9月で、それ以後4年2ヶ月にわたり繁殖は認められていない。過去3年以上にわたり鳴声の確認もないことから、未成熟個体が池から離れて生存している可能性もきわめて小さいと考えられる。以上より、根絶を果たしたものと考えられる。

